

広報119

2011春号 vol.11



3月11日14時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生しました。この地震で一関市・藤沢町で震度6弱を、平泉町で5強を観測しました。また、4月7日にはマグニチュード7.4の余震が発生し、2度の地震により管内では住宅・道路などに多くの被害が出ました。

写真 一関市沢配水池の崩壊(中央)地震で倒れた家具(左上)ブロック塀の崩壊(右上)国道457号線一関市萩荘地内の落石(右下)

想い・つながる 自主防災の力

東北地方太平洋沖地震での自主防災組織の活動

【婦人消防協力隊】

隊員が徒歩で駆けつける

一関地域婦人消防協力隊
隊長 鈴木 克子



一関地域婦人消防協力隊の炊出活動の様子

災害規模のあまりの大きさに、自分達は何をしたらいいのか、すぐに思いつきませんでした。「自分達が出ることによるし

かない」と思い、電話がつながりにくく、またガソリン不足の中、連絡の取れた三十三名の隊員が、自転車や徒歩で駆けつけ、三月十二日から十五日まで、市内の避難所に避難している方々への炊出し活動を、一関老人福祉センターで行ないました。被害に遭われた皆様に心からお悔やみを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

地域組織が連携を図り活動

花泉町婦人消防協力隊
隊長 稲邊 正子



地域組織が連携して炊き出しを行う

三月十一日の地震後余震が続き、翌日から民生委員、婦人会、自主防災組織等が町内の各避難所へ駆けつけました。

電気、水道が使えず、また車両用燃料が不足する等、今回の様な大規模な地震の経験が無かったため、いろいろな面で非常に困難な状況でした。いつ応急対策に目処がつかかわからない中、地域企業等からいただいたパンやお菓子、支所から届けられた米等を、食事のバランスが偏らないよう一週間の献立を作成し、それに基づき炊き出しと配給をしました。配給の際に

は避難者の方々にはマナーを守って接していただきました。皆が大きな不安を持ちながらの活動ではありましたが、お互いに自らができることを進んで行い、協力することがこの困難を乗り越える力になると感じています。

【自主防災組織】

地域ぐるみで救援物資を送る

一関市真滝七区自主防災会



集められた支援物資の仕分けの様子

恩返しをしたいと思ひ、急な呼び掛けではあつたが九十世帯が物資の提供に当たってくれた。被災者も一日でも早く物資を届

真滝七区自主防災会(佐々木増雄会長)は、東北地方太平洋沖地震で甚大な被害を受けた沿岸被災地へ支援物資を送るため、全会員に声を掛け、支援物資の提供をお願いしたところ、毛布・タオル・紙コップ・紙皿・米約百キロなどが集まりました。佐々木会長は「平成二十年の岩手・宮城内陸地震で助けてくれた方々への

けたい。避難生活が強いられる被災者が早く元気を取り戻してくれば大変うれしく思う。」と話していました。物資は一関市を通じて陸前高田市などに届けられました。

自主防災組織の結成状況

市町名	地域名	行政区	組織数	結成行政区数	結成率
一関市	一関	157	75	114	72.61%
	花泉	60	7	60	100.00%
	大東	88	51	56	63.64%
	千厩	28	31	28	100.00%
	東山	28	28	28	100.00%
	室根	20	20	20	100.00%
	川崎	26	26	26	100.00%
平泉町		21	17	17	80.95%
藤沢町		43	41	41	95.35%
合計		471	296	390	82.80%

平成23年3月31日現在 結成率は結成行政区数/総行政区数

発行日 ●平成23年5月25日
 編集 ●一関市消防本部
 〒021-0053
 岩手県一関市山目字中野140-3
 TEL (0191) 25-0119

今後の行事予定

5月 1日～31日	水防月間	9月 1日	防災の日
6月 5日～11日	危険物安全週間	9月 4日～10日	救急医療週間
	上旬 危険物安全研修会	9月 9日	救急の日
7月 2日	危険物取扱者試験(第1回)	10月29日	危険物取扱者試験(第4回)
8月 27日	消防設備士試験		

一関市消防本部のホームページURL

<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/syobo/index.html>

火災などの災害情報の問い合わせ

TEL 0180-991199

今後の余震には十分警戒しましょう

東北地方太平洋沖地震

地震に対する備えをもう一度確認しましょう。身の回りを点検しましょう。

地震から身を守るために

地震から身を守るために次のことに注意しましょう。

○まず身の安全を守る

丈夫なテーブルや机の下に身を隠し、座布団などで頭を守りましょう。



○すばやく火の始末

小さな揺れでもガスコンロやストーブなどの火を消しましょう。



○戸をあけて出口を確保

揺れが激しいと戸が變形して開かなくなり、室内に閉じ込められたりします。出口を確保しましょう。



○外に逃げる時は

外に逃げる時は瓦やガ



○狭い路地やブロック塀には近づかない

ブロック塀、門柱などが倒れて、けがをすることがあります。近づかないようにしましょう。



○山崩れ・がけ崩れに気をつける

地域の危険箇所等を事前に確認し異変を感じたら、早めに対応するように心がけましょう。梅雨時期には特に気を付けましょう。



○正しい情報を聞く

ラジオ・テレビなどで正確な情報を聞き、的確な行動を取りましょう。



○近所で声を掛け合おう

日頃から近所でお互いに声をかけ合い、いざと言う時に備えましょう。



安全・安心の家づくり あなたの家は大丈夫？

家の中を安全にするために必要な地震対策を紹介します。

○ガラスの飛散防止

地震が発生すると、窓ガラスが割れてけがをする恐れがあります。これを防止するには、「ガラス飛散防止シート」が効果的です。



ガラス飛散防止フィルムの設置

○家具の転倒防止

家具が転倒し、下敷きになってけがをする恐れがあります。安全な逃げ道を確保するためにも、家具の前面の下に板を敷き、上部を高くしたり、上部を金具で柱などに固定して転倒を防ぎましょう。



ベルトで家具を固定



転倒防止板の設置

○扉の開放防止

家具や食器棚の扉などを金具や丈夫なひもなどで固定することにより、中身が飛び出したり、落下するのを防ぐことができます。



金具で扉を固定

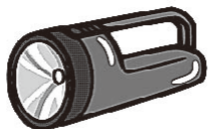
室内では、テレビを固定し、屋外ではガスボンベやアンテナ、またエアコンの室外機などは固定されているかについても一度点検してみましょう。
また避難通路の確保のため、玄関や廊下などには必要の無いものを置かないようにしましょう。

最低限そろえておきたい非常持出品

もう一度家族で点検してみよう。

懐中電灯

できれば一人にひとつ用意。



非常食

乾パンや缶詰など、火を通さず食べられるものを準備。



携帯ラジオ

小型で軽く、AMとFMの両方を聞けるものを用意。



水

飲料水は大人1人当たり、1日3ℓが目安。少なくとも3日分の用意を。ペットボトルやポリ容器に水をためておくとう便利。



救急箱

キズ薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬などの常備薬を、また持病のある方は処方薬などを用意。



これらのほか、貴重品（現金・保険証など）、生活用品（紙コップ・紙皿・はし・ビニール袋など）、衛生用品（歯ブラシ・タオル・ちり紙など）、衣類、毛布、卓上コンロや固形燃料、予備のガスボンベなどを家族構成を考慮して、避難時にすぐに取り出せる場所に保管しておくことが大切です。
災害発生後の数日間を自足できるように、各家庭で準備しておきましょう。

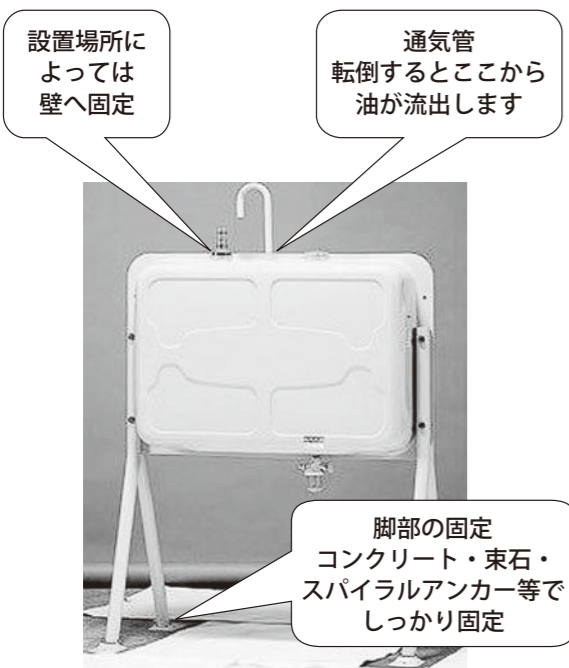
ホームタンクの転倒等による油漏れを防ぎましょう

今回の地震で油漏れ事故に消防車が出動した件数は五十二件でした。その多くはホームタンクの脚部が固定されていないため、固定方法が不十分であったため、転倒して油が漏れたものです。

油漏れが発生すると流れた油への引火による火災や、河川への流出により農作物や飲料水への影響が考えられます。油漏れを防ぐためにもう一度ホームタンクの固定方法を確認してください。また、ホームタンクからの油漏れ事

- ホームタンクからポリ容器に灯油を入れるときは、絶対にその場を離れないようにしましょう。
- ホームタンクからポリ容器に灯油を入れ終わったら、タンクのバルブを完全に閉めましょう。
- ホームタンクの配管等に腐食や亀裂がないか確認しましょう。

ホームタンクの点検箇所と固定方法



容量 200ℓ 以上のタンクは防油堤が必要です。